

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 金沢市立森本小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒920-3116
石川県金沢市南森本町イ111番地

E-mail morimoto-e@kanazawa-city.ed.jp

Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/morimoto-e/

児童生徒数 男子 313名 女子 288名 合計 601名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

3. 活動内容



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います

金沢市立森本小学校

〔はじめに〕

本校は、森本・八田・才田・大場小学校を統合し、1971年に現在の森本小学校として創設された。現在の学級数は21学級で、児童数は601名である。

校舎の近くには森下川や八田・三ヶ用水が流れており、多くの自然が残っている地域である。かつては、恵まれた自然を生かして、愛鳥モデル校に指定されていた。また、校区には広大な敷地の北部公園があり、学校行事や学習に利用するとともに地域の人々の憩いの場となっている。

25年度より、ユネスコスクールの認定を受け、福祉や伝統、環境、国際理解を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

わたしたちのまち「森本」に生きる
～地域とのつながりを大切に～

1 ユネスコスクールとしての取組

25年度よりユネスコスクールの認定を受け、生活科や総合的な学習の時間を中心に、「金沢ふるさと学習」との関連を図りながら、福祉や伝統、環境、国際理解をテーマとして持続発展教育の実践を行ってきた。各学年の取り組みは以下の通りである。

【1年生：伝承遊びに親しもう】

近年、子ども達の「遊び」といえば、どうしてもテレビゲーム等の電子機器に偏りがちである。生活科の学習では、こまやけん玉、お手玉などの昔遊びを紹介したところ、どの子も大変興味を持ち、夢中になっていた。いろいろな昔遊びを体験したところで、地域の方を昔遊びの名人としてお招きし、教えていただく交流会を行った。子ども達にとっては、昔遊びのおもしろさを実感しただけでなく、地域の方とふれあう良い機会となった。



【2年生：どきどきわくわくまちたんけん】

自分たちの生活が地域の人々や場所と深く関わっていることに気づくため、地域の公園や公共施設を訪れた。自分たちで計画を立て、春には公園を探検し、秋には公共施設でインタビューをした。働く人々から直接話を聞くことで、これまで意識したことのない公共施設の役割や、そこで働く方々の思いを知り、地域との関わりを深めた様子であった。最後に、町探検で学んだことをグループごとに新聞にまとめ、発表した。



【3年生：金沢の伝統を受け継ぐ】

本年度も昨年に引き続き、「森本のたからもの」をテーマに、郷土意識を育むことをねらいに学習を行ってきた。地域に古くから伝わる踊り「ハイヤサンカサ」についての学習を初め、各町会に伝わる祭りについて、グループを組み積極的に調べ活動を行った。また、学校に和菓子職人さんをお招きし、実際に和菓子作りにも挑戦した。本物の技を持つ人たちの指導を受けて、児童はその伝統の技に驚きながらも、和菓子を作る楽しさを味わうことができた。



【4年生：身近な人の生き方に触れよう】

4月に子ども達と「金沢・森本の人や物の宝を学習していこう」と計画を立て、地域の特別支援学校の児童や老人施設の高齢者、金沢の偉人、伝統工芸に焦点を当て学習を展開してきた。支援学校や老人ホームとの交流では、相手のことを具体的にイメージしながら準備を進めた。交流では、互いの違いを理解し、やさしく思いやりを持って接することができた。

また、金沢ふるさと偉人館の見学を通して、偉人たちの業績や生涯を調べることで、どんな気持ちで研究や努力を続け、人々にどのような影響を与えたのか知ることができた。新たに知ったことを、グループごとに新聞にまとめてみた。



【5年生：森本の環境を守ろう】

学校のまわりの自然環境や森下川の様子を観察することで、森本の環境を詳しく調べよう、大切にしたいという意欲をもった。その後、地域の方々の協力を得て、大場地区の希少な動植物を調べた。昔と今の変化を知ったり、生き物が環境の指標となっているということ学んだことができた。本校区には、絶滅危惧種であるハツタミミズがいる。それを観察、飼育することを通して、森本の希少な動植物について深く知り、それらを守っていくために自分たちが率先して環境によい生活をしていかなければならないという思いをもち、今の自分たちができることを考えることができた。



【6年生：金沢の伝統産業を知ろう】

加賀友禅、加賀毛針、和傘、加賀人形などの金沢に伝わる伝統産業について、調べ学習を通して理解をより深めた。伝統工芸が盛んな自分たちの街への興味関心を高めることができた。そこで学んだことを金沢城・尾山神社・長町武家屋敷跡・近江町市場などの史跡、観光名所などと絡めて「金沢紹介壁新聞」にまとめた。校内で掲示し、他学年にも発信することができた。英語の学習でもほぼ同じ内容のプログラムがあるので、英文スピーチに置き換える学習に取り組んだ。中学校のALTが来校した際に上記の内容を英文で発表し、「This is KANAZAWA」として郷土への愛着を高めることができた。



2 成果と課題

どの学年も、恵まれた自然環境や地域の伝統文化を通して、地域の方との交流を大切にして学習を進めた。また、「わたしたちのまち”森本”に生きる」を学校共通のテーマとすることで、これまで以上に自分たちの住む森本地区に関心をもち、地域とのつながりを意識し愛着を深めることができた。そして、「校区」「福祉」「伝統」「環境」「国際理解」と、学年を追うごとに視野を広げられるようにすることで、系統だった学習につながった。

4年生は、調べたことを新聞にまとめ、保護者や地域の方に発表した。学習したことを他者に発信することで、より学びを深めることができた。今後も、校内や地域に発信するとともに、他校への発信にもつなげていきたい。

上記のような発信を、さらに計画的に行っていく。「いつ」「どこで」「だれに」「何を」「何のために」発信するのかを検討し、児童の主體的な学びにつなげていきたい。また、単なる発信に終わるのではなく、森本の伝統文化や地域のよさ、人との絆や交流を大事に思う気持ちなどが伝わるような表現力を身につけさせていくとともに、森本に生きる一人として、自分に何ができるのか、何をしていきたいのか等を考えさせていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）